

標準化タスクフォースにおける 取組の報告

令和7年12月10日

国土交通省 BIM推進会議 標準化タスクフォース、属性項目の標準化における成果物として「属性情報の標準化」「ユースケースの検討」「外部データとの連携」を軸に検討を進めてまいりました。

建設業界におけるデジタル化と効率化を推進し、共通の基準となるBIMの属性情報を提供することを目的として、今年度は「標準属性項目リスト」を活用したユースケースの検証及び社会実装に向けたデータベースの在り方を検討する予定であります。

皆様のご協力と知恵の結集により、この成果物が業界標準として広く受け入れられることを期待していますので、何卒、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

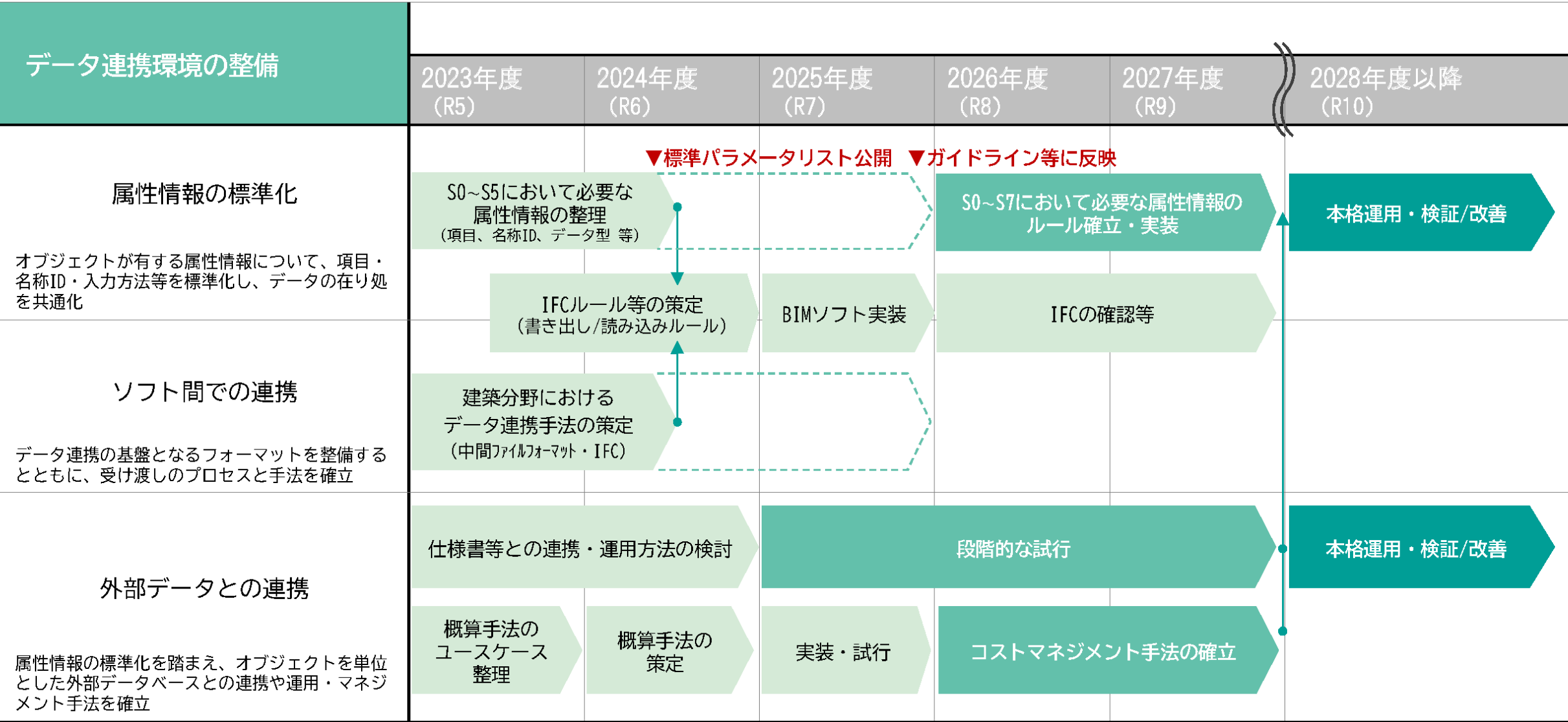
2025年12月10日
標準化タスクフォース

1. これまでの検討・作業概要	-----	03
2. I. 属性情報の標準化 進捗報告	-----	11
3. II. ユースケース検討 進捗報告	-----	17
4. III. 外部データとの連携 進捗報告	-----	23
5. 今後の取り組み	-----	26

1 これまでの検討・作業概要

BIMの将来像と工程表 - データ連携環境の整備

データ入力ルール等の整備（データの標準化）とデータの受け渡しルール等の共通化を進めることで、設計・施工・維持管理等プレーヤー間でのBIMデータの横断的活用を進め、建築分野における生産性向上を実現する。

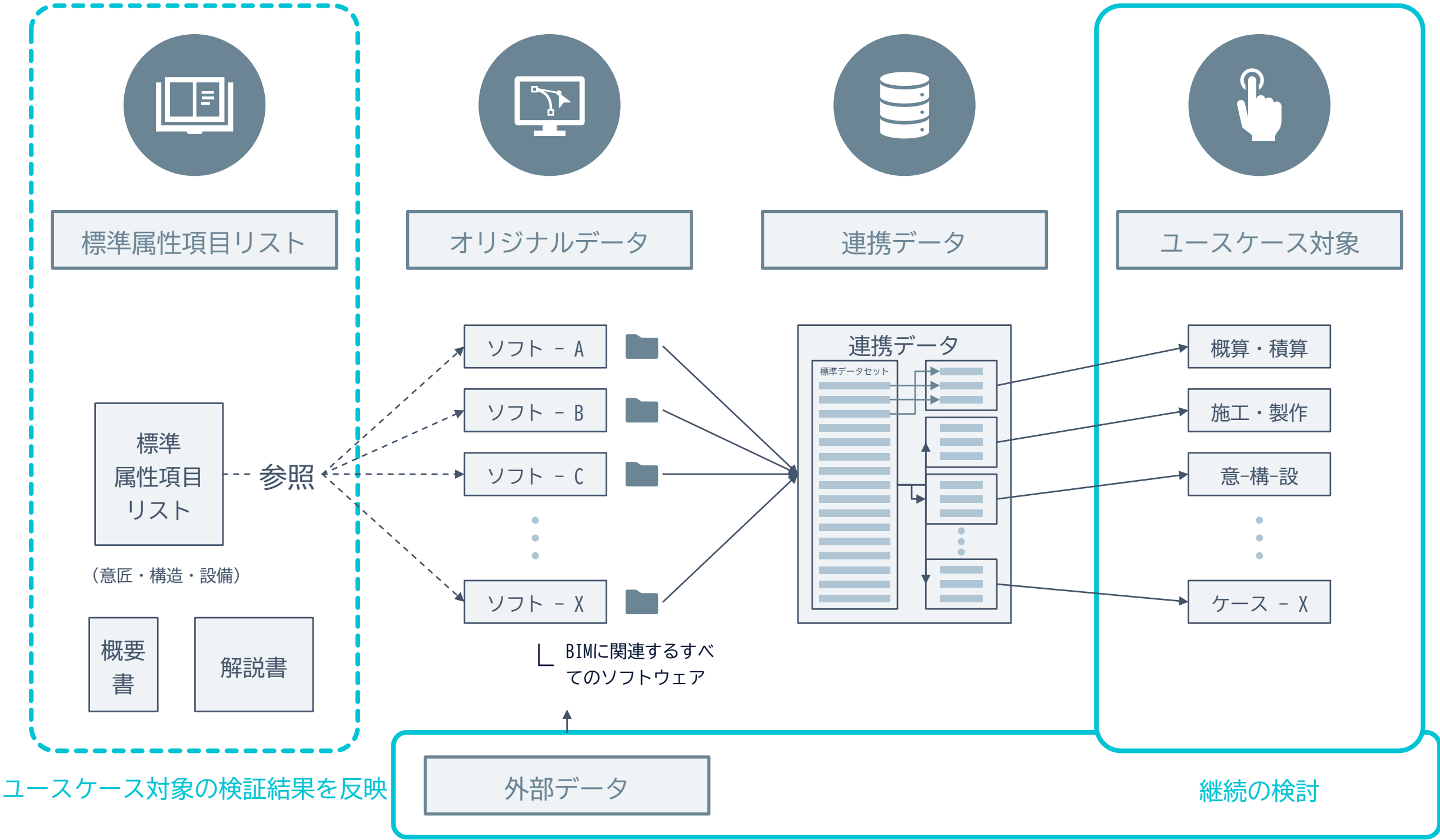


引用：第11回BIM/CIM推進委員会「建築分野における検討WG（建築BIM推進会議）の活動状況について」令和6年2月22日

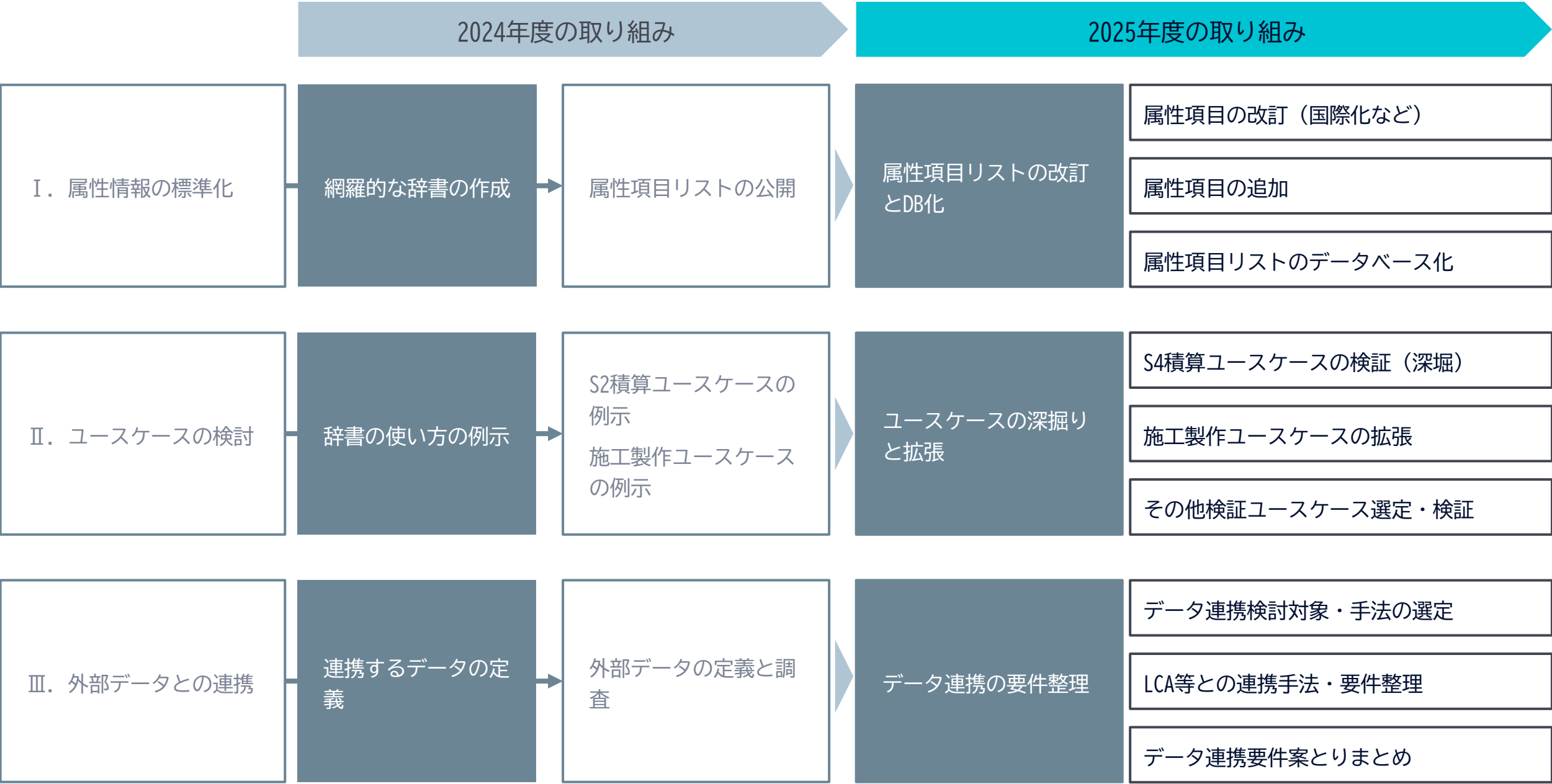
用語の整理を行った結果、「標準パラメータリスト」ではなく、「標準属性項目リスト」と名称を改めました。

スコープ

今年度は、以下のスコープで検討を進めています。
 連携データの検討においては、サンプルモデルをベースに検討を進めています。その検証結果を標準属性項目リストへフィードバックし、更新作業を進めていきます。

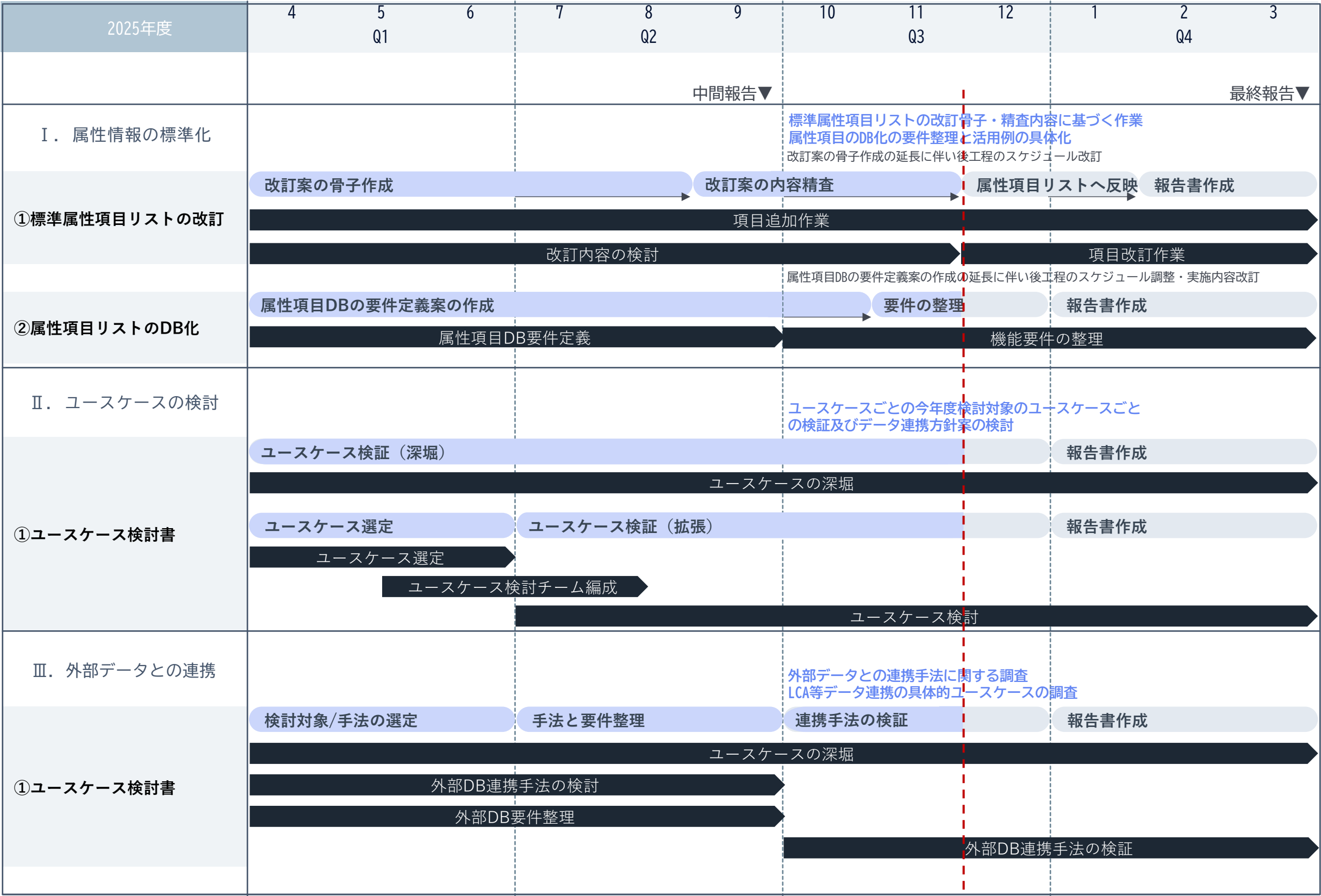


25年度の取り組みでは、「属性情報の標準化」を社会実装につなげるためのデータベース化や「ユースケースの検討」としてのユースケースの拡大と深掘り、「外部データとの連携」としてデータ連携の要件の整理に重点を置き、標準化の実効性を高めるための具体的な検討を進めていきたいと考えております。



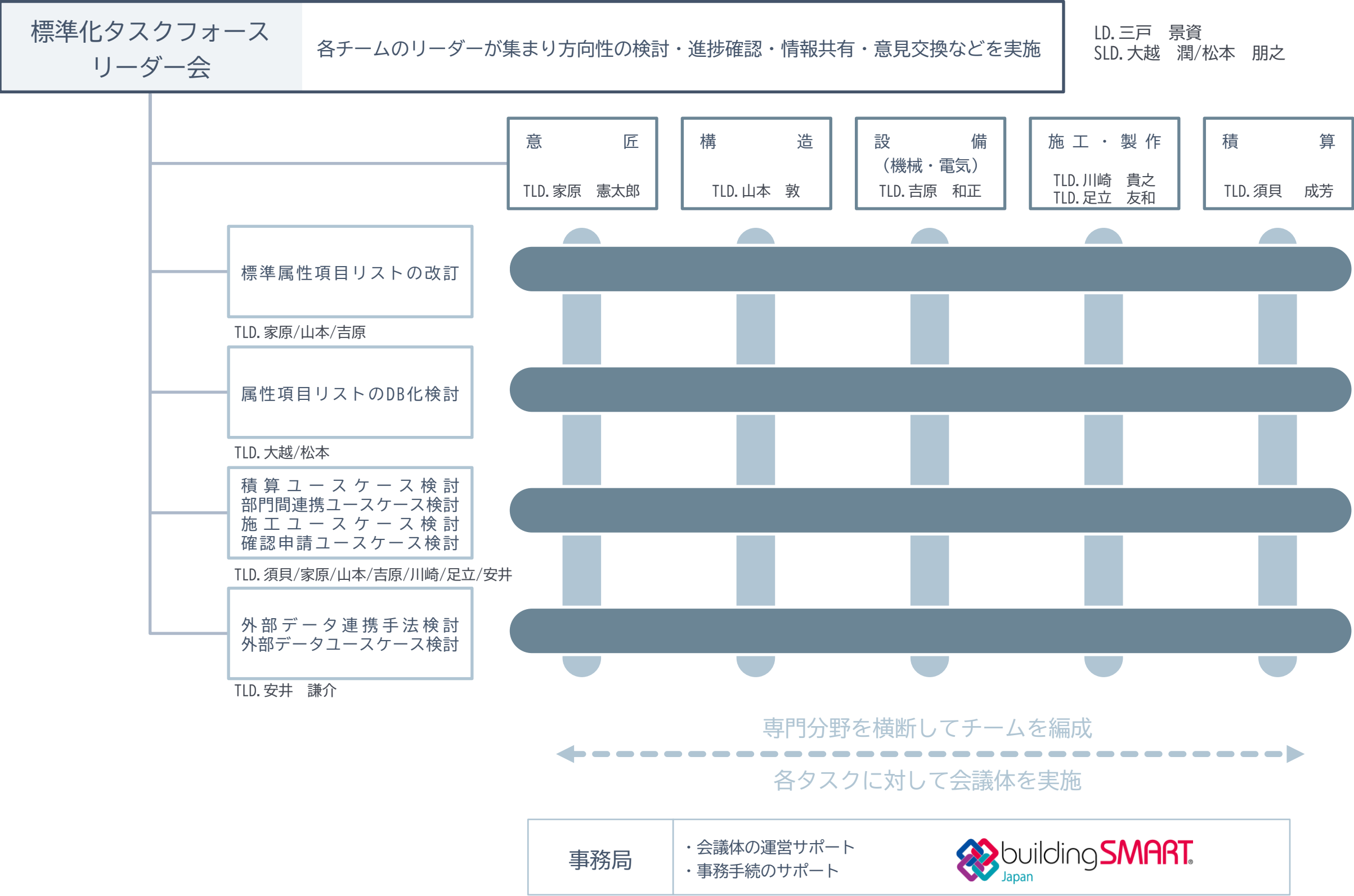
項目	目的	完了予定時期	タスク	成果物	備考・確認事項
1 属性情報の標準化	標準パラメータリストを各社が実装することで、データ連携がスムーズになる	2026年3月	属性項目の改訂-1（精緻化）	標準属性項目リストVer2.0	チーム間・ユースケース深堀で追加された項目に関する精緻を実施 2024.11実施意見照会結果の反映
		2026年3月	属性項目の改訂-2（国際化など）		国際的な動きに関連した形で属性項目を見直す
		2026年3月	属性項目の追加-1（計算情報）		計算情報に関する属性項目を追加
		2026年3月	属性項目の追加-2（ユースケース）		ユースケース拡張で検討された属性項目を追加
		2026年3月	属性項目リストの活用実証	属性項目データベース化要件書	データベースを構築・サンプルを作成し、属性項目リストのフィルタリングや活用例を提示
2 ユースケースの検討	ユースケースに基づき、標準パラメータリストに対応した中間ファイルフォーマットを策定することで、データ連携がスムーズになる	2025年6月	ユースケースの選定	-	今期実施するユースケースを選定、他部署との連携を含めメンバ選定とチーム編成を見直す
		2026年3月	情報連携の実用性検証-4 深堀 積算ユースケース（S4）	ユースケース検討書	先期S2でのユースケース検証に基づき、S4での積算ユースケース深堀を実施
		2026年3月	情報連携の実用性検証-5 深堀 部門間連携ユースケース		選定された部門間（意匠・構造・設備、施工・製作等）ユースケース検証を実施
		2026年3月	情報連携の実用性検証-6 拡張 施工ユースケース		建産協と協働で施工製作におけるユースケース検証を実施
		2026年3月	情報連携の実用性検証-7 拡張 その他選定ユースケース		その他選定されたユースケース検証を実施
3 外部データとの連携	外部データとして扱われる情報を整理することで、モデル情報とその他の情報を整理し、データ連携手法を検討することで、データ連携がスムーズになる	2025年9月	データ連携に関する対象・手法の整理	データ連携検討報告書	建築工事標準仕様書等との連携手法の整理
		2025年9月	データ連携する際の要件整理		
		2026年3月	ユースケースの追加	属性情報の検討報告書	外部データベースとして整備すべき属性項目の検討

2025年度	4	5 Q1	6	7	8 Q2	9	10	11 Q3	12	1	2 Q4	3
						中間報告▼						最終報告▼
I. 属性情報の標準化												
		改訂案の骨子作成		改訂案の内容精査			属性項目リストへの反映			報告書作成		
①標準属性項目リストの改訂							項目追加作業					
				改訂内容の検討					項目改訂作業			
②属性項目リストのDB化		属性項目DBの要件定義案の作成					サンプルDBの構築			報告書作成		
				属性項目DB要件定義					属性項目サンプルDB			
II. ユースケースの検討												
		ユースケース検証（深堀）								報告書作成		
							ユースケースの深堀					
①ユースケース検討書		ユースケース選定		ユースケース検証（拡張）						報告書作成		
		ユースケース選定										
			ユースケース検討チーム編成									
							ユースケース検討					
III. 外部データとの連携												
		検討対象/手法の選定		手法と要件整理			連携手法の検証			報告書作成		
							ユースケースの深堀					
①ユースケース検討書				外部DB連携手法の検討								
				外部DB要件整理								
									外部DB連携手法の検証			



実施体制

昨年度の専門分野別主体の縦軸チーム編成から、タスクの横軸を主体としたチーム編成へ変更
意匠・構造・設備・施工製作・積算の各専門分野チームをマトリックス状に配置して実施体制を構築



2 I . 属性情報の標準化 進捗報告

改訂については、昨年度提示された基本課題への対応による修正のほか、ユースケース検証から考察された項目の追加や統合・廃止などといった修正を行います。

[illegible]意見収集
への対応

I . 属性情報の標準化 | 標準属性項目リスト改訂方針

標準属性項目リスト
改訂方針

今年公開した標準属性項目リストを社会実装していくために、今年度改訂の骨子として、下記の課題に関し改訂を実施します。
解決すべき課題を抽出し、課題に対し優先順位を決めて順次改訂に向けた対応をしていきます。特に基本課題として部門間（意匠・構造・設備）で調整すべき内容に焦点をあてて検証を行います。

課題の分類	課題	概要	成果
基本課題	国際化について	様々な国際的な標準と情報連携するために、解決すべき課題の整理を行う 例：国際化は目的によって何をすべきか異なるため、目的を明確にする（属性項目名を英語化する辞書的な役割、海外とのデータ交換など、目的の整理）	報告書 標準属性項目リスト_改訂版 標準属性項目解説書_改訂版
	属性項目の入力値について	属性項目に入力する値の標準化に関する課題の整理 部門間での表記ゆれや異なる単位・データ形式になっている項目の整理	
	命名則などのルールの整理	部門間の属性項目の命名則などのルールの整理 部門間で同じ意味・名前の属性項目の扱いを整理	
リストの追加・精査	計算情報の属性項目の整理と追加	計算情報（計算に利用する情報）の内容の明確化 計算に利用する属性項目の選別と追加	
	フィルタセットについて	昨年度考案したリストのフィルタセットをより使いやすくするためのルールなどを整理する	
活動の反映	ユースケースS2積算検討内容の反映	昨年度検証した内容をリストに具体化する	
	24年度意見照会結果の反映	24年度実施の意見照会に対し、方針や反映した内容をリストに具体化する	

I . 属性情報の標準化 | 標準属性項目リスト改訂案

標準属性項目リスト 改訂案

現在の中間報告として、BLCJ_BIMオブジェクト標準Ver2.0との整合対応を進めています。
その標準属性項目リスト改訂案の一部を以下の図に示します。その他改訂対応も前項の改訂方針に則って適宜進めていきます。
データベースへの移行までは、表計算ソフトで改訂内容を管理できるように以下のように対応中です。

改訂部分が分かるように文字の色分けで対応する予定。
例 追加：青 修正：赤

非公開部分に改訂仕分けやその改訂概要などを記載
例 追加：● 修正：○ 削除：✕

公開部分（抜粋）

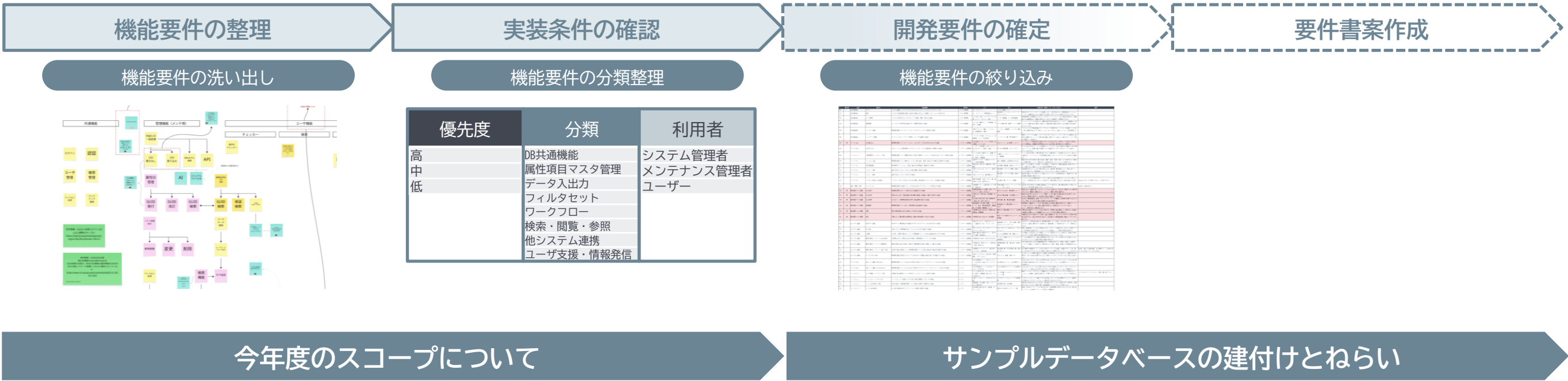
非公開部分（作業用）

検討チー	階層Typeof1	階層Parto	区分1	属性項目名（日本語）	単位	入力値（参考例）	属性項目説明	個別フィー	改訂仕分	追加：●	修正：○	削除：✕	+属性項目名見え	改訂備考
音匠	衛生器具		寸法情報	ユニット数		2	ユニット数を示す。例：配列複写の数などを示す。							
音匠	衛生器具		寸法情報	外形寸法_幅	mm	700	手洗い・洗面の幅を示す							
音匠	衛生器具		寸法情報	外形寸法_高さ_あふれ面	mm	700	このように外形寸法が複数必要な場合は、W,D,Hの後ろに “_あふれ面” のように追加する。							
音匠	衛生器具		寸法情報	外形寸法_奥行	mm	700	手洗い・洗面の奥行を示す							
音匠	衛生器具		寸法情報	外形寸法_高さ	mm	700	手洗い・洗面の高さを示す							
音匠	衛生器具		寸法情報	空間寸法_幅	mm	900	プロジェクト単位、企業単位で任意に定める最低必要幅などを示す							
音匠	衛生器具		寸法情報	空間寸法_奥行	mm	1500	プロジェクト単位、企業単位で任意に定める最低必要奥行などを示す							
音匠	衛生器具		寸法情報	空間寸法_高さ	mm	2400	プロジェクト単位、企業単位で任意に定める最低必要高さなどを示す							
音匠	衛生器具		寸法情報	レイアウトピッチ	mm	850	プロジェクト単位、企業単位で任意に定める隣り合うオブジェクトからの必要最低寸法などを示す							
音匠	衛生器具		識別情報	設置形態		壁掛け式	手洗い・洗面がカウンター式なのか壁掛け式なのかを示す		●					BLCJ改訂3版で追加する属性項目
音匠	衛生器具		識別情報	水栓金具仕様		自動水栓	水栓金具の仕様を示す		●					BLCJ改訂3版で追加する属性項目
音匠	衛生器具		識別情報	温水設備仕様		電気温水器	温水設備の仕様を示す		●					BLCJ改訂3版で追加する属性項目
音匠	衛生器具		識別情報	水石けん入れ仕様		オートソープ	水石けん入れの仕様を示す		●					BLCJ改訂3版で追加する属性項目
音匠	衛生器具		識別情報	使用水		中水	上水、中水などの使用水を示す。							
音匠	衛生器具		寸法情報	空間寸法_幅	mm	900	プロジェクト単位、企業単位で任意に定める最低必要幅などを示す							
音匠	衛生器具		寸法情報	空間寸法_奥行	mm	1500	プロジェクト単位、企業単位で任意に定める最低必要奥行などを示す							
音匠	衛生器具		寸法情報	空間寸法_高さ	mm	2400	プロジェクト単位、企業単位で任意に定める最低必要高さなどを示す							
音匠	衛生器具		識別情報	使用水		中水	上水、中水などの使用水を示す							
音匠	衛生器具		配置情報	基準レベル		2FL	配置した器具の所属階を示す							
音匠	共通		基本情報	企業コード			「標準（統一）企業コード（6桁）」による。このコードは、（一財）日本情報経済社会推進協会(JIPDEC)が一元管理する業界横断的な企業コードである。 https://jipdec.or.jp/project/kcode.html		●					BLCJ・BIMオブジェクト標準VER2.0の共通と考える属性項目
音匠	共通		基本情報	企業名			企業名を示す		●					BLCJ・BIMオブジェクト標準VER2.0の共通と考える属性項目
音匠	共通		基本情報	企業URL			企業のWebサイトURLを示す		●					BLCJ・BIMオブジェクト標準VER2.0の共通と考える属性項目
音匠	共通		基本情報	分類コード			製品の分類コードを示す		●					BLCJ・BIMオブジェクト標準VER2.0の共通と考える属性項目
音匠	共通		基本情報	分類グループ			Webサイトでの検索用の業種分類を定義		●					BLCJ・BIMオブジェクト標準VER2.0の共通と考える属性項目
音匠	共通		基本情報	製品グループ			Webサイトでの検索用の製品分類を定義		●					BLCJ・BIMオブジェクト標準VER2.0の共通と考える属性項目
音匠	共通		基本情報	メーカー型番			製品等の（メーカー商品）型番を示す		●					BLCJ・BIMオブジェクト標準VER2.0の共通と考える属性項目

I. 属性情報の標準化 | 属性項目のデータベース化の要件案

標準属性項目リスト データベース化

現在PDFやExcelで公開されている標準属性項目リストは、検索性や確認、他システムとの連携に課題があり、実務でのフル活用が難しいのが現状です。BIMモデルとの密接な連携を前提に、効率的な運用を実現するためにはクラウド環境でのデータベース化が不可欠であり、その開発要件を整理することを目的として、標準化TFにて議論を行い、意見をまとめて要件書案を作成します。



- 標準属性項目と属性IDを辞書として持続的に管理・利活用するためのデータベースとしての方針を示す。
 - 上記の目的のために、基本構造と機能要件を検討する。
 - 運用主体、商用サービス実装は今回の検討対象外とする。
 - 検討項目
 - 標準属性項目を格納するDB構造と機能要件
 - 属性ID（GUID）の発行、改訂、検索機能
 - ユーザー向け検索、解説書連携、IN/OUT、API連携の要件
 - サンプルデータベースとユースケースの整理
 - 要件書案としてのとりまとめ（民間による実装の参考とする）
- 今回のサンプルデータベースは、ユーザー向け機能ではなく、検索・追加・変更・削除や履歴管理といったメンテナンス機能を目的とする。
 - Excelでは困難な改訂プロセスをデータベースでどこまで効率化できるか検証し、継続的運用に必要な基盤条件を明らかにする。

I. 属性情報の標準化 | 属性項目のデータベース化の活用例

メンテナンス機能



標準属性項目改訂担当者

• 標準属性項目の登録

新しく必要になった際、データベース画面から属性ID（GUID）を自動発行し、共通フィールドや個別フィールドを登録する。

• 重複チェック

既存の標準属性と重複しないか、データベースの重複チェック機能で即時確認。

• 履歴管理

修正・削除は履歴として残り、改訂状況が共有可能。従来Excelの複雑なフィルタの中から該当項目を探す負担がなくなり、標準改訂の作業効率と安全性が向上。

ユーザー向け機能



設計者

• 標準属性項目の検索

検索画面で「仕上」「幅」などのキーワード、フィルタセットを組み合わせ、必要な属性ID、属性のセットを抽出できる。

• データ連携

属性IDを基に、積算など下流工程でのデータ連携が容易になる（単位・書式の不一致解消）。



積算担当

• 積算連携

BIMモデルの数量や材質情報を属性IDで取得し連携。属性IDで統一されているため、情報差異が小さくなり、手作業によるマッピングや補正が減少。

• 積算の精度向上

設計変更があっても、属性IDをキーに差分を検出でき、積算の精度向上に寄与できる。



専門工事会社・メーカー

• データ連携

BIMモデルに設定された属性IDを読み取り、メーカー側の製品情報（カタログ情報）に紐づける。

• フィルタセットの活用

工種別に必要な項目（例：鉄骨・ガラス・防火など）を抽出し、製作図で必要な情報を漏れなく確認。製作情報と連携できるようになる。

3

Ⅱ. ユースケース検討

進捗報告

Ⅱ. ユースケース検討 | 検証ユースケースの対象について

ユースケースの深掘りと拡張

昨年度の取り組みにおいては、S2における積算ユースケースの検証を行いました。その結果、多くの課題が浮き彫りになってきたため、積算ユースケースをS2だけにとどまらない検証が必要と考えられます。また、様々なユースケースを集めること、積み上げることが、標準化の有用性や実運用上の課題が明確になり、MET/MATなどの指針を策定する際の重要な基礎情報となると考えられます。

ユースケースの対象

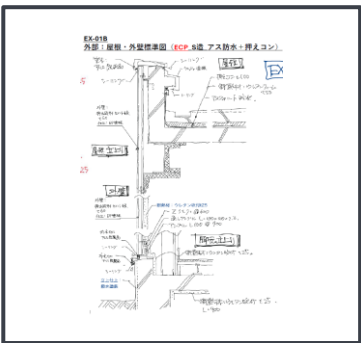
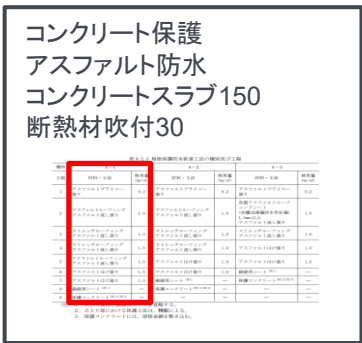
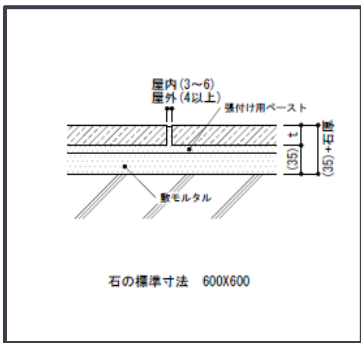
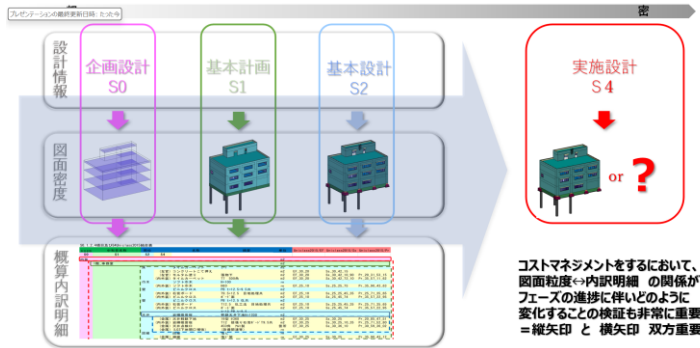
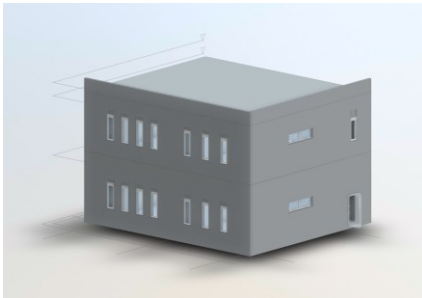
ユースケースについては、昨年度集約したものより実現性と必要性から検討し選定（2024年度_標準化TF_活動報告書.pdf p31-33）

- ① ユースケースの深掘り：より実践的なユースケースとしての検証を行う
 - ・ 積算ユースケース | 昨年度からの継続として、S2からS4へ深掘りを行う
 - ・ 部門間ユースケース | 標準属性項目の部門を横断した実践的な活用・標準化を進める
- ② ユースケースの拡張：ユースケースの対象範囲を広げて検証を行う
 - ・ 施工ユースケース | 昨年度「建具工事」アルミサッシ（ガラス含む）のユースケース検証を行い、本年度も専門業者へ情報を受け渡す際のパターンを拡張していく

Ⅱ. ユースケース検討 | 【深堀】 S4積算

積算ユースケース S4における積算

S2モデルをS4モデルにすることで、標準属性項目リストの精度向上と活用例の提示を主目的としてユースケースの深掘りを行います。
モデル作成標準のあり方には言及せずに、各社のBIMモデル標準を各社で活用できるように生産における要求事項の整理を行います。
標準的なS4段階のLOD・LOIが存在しない中、モデリング側の負荷と積算側の要望との妥協点を探ることが、今回の検証内容の一つとして捉えています。



現状のディスカッション中の進め方と課題・指針について

サンプルモデルについて

- S2サンプルモデルと同じ建物(*)のS4版を作成
(*)2階、S造、事務所、1スパン x 2スパン
- S2モデルで設定したパターン詳細図が具現化したもの
- 2D図面は作成しない
- 営繕BIMモデルが一つの参考となるものの、標準的なS4段階のLOD・LOIが存在しない中、モデリング側の負荷と積算側の要望との妥協点を探ることが、今回の検証内容の一つとして捉える

S4積算ユースケース検証ポイント

- 標準属性項目リストの精度向上にフォーカス
積算における要求事項の整理を最優先とする
- 数量の算出は、モデルから抽出できるものが1割程度になる
(昨年度の検証結果)
- モデル作成標準に関わる、どこに何の情報を入れるのかなどのBIMモデルのあり方には言及しない
 - 積算のために渡す属性項目のリストを作成する
 - 外部データとの組み合わせなのか、属性情報をモデルに組み込むのか、2次元CADデータなのかは、各社のモデル標準によって仕訳することを提示

Ⅱ. ユースケース検討 | 【深堀】 部門間連携

部門間連携 意構設連携

今年公開した標準属性項目リストを社会実装していくために、リストの具体的な使い方を例示する。今年度に取り組む部門間連携は、具体的なケースとして「[部屋・空間を活用した構造荷重の情報連携](#)」とする。部門間での連携において、個社ごとにプロセスがことなるため、標準化が困難な状況にある。その中で、標準属性項目リストを活用することに焦点を置くと、「部屋・空間」のデータ連携が部門間共通で具体的な実装イメージが可能と考える。また、設備部門の視点を中心としてどのような情報連携が考えられるかを検討し「[設備部門における部屋・空間を活用した情報連携のユースケース一覧](#)」合わせて整理することとした。

検討過程・進め方のイメージ



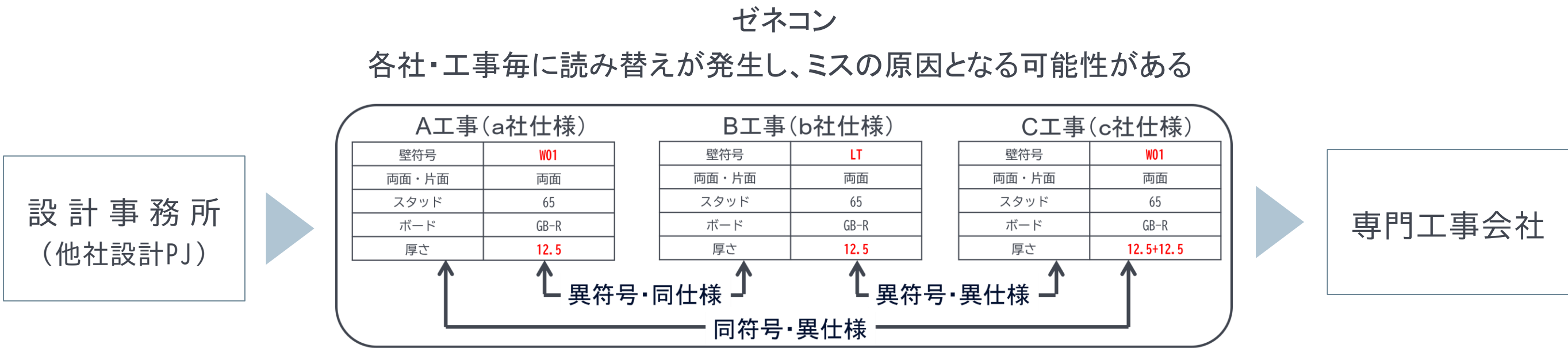
部屋・空間を活用した目指したい情報連携のカタチを以下の視点をベースにして設定する	目的・ゴールで設定した情報連携について、解決すべき課題を整理する	標準属性項目を活用した情報連携のプロセスを具体化する	成果
<ul style="list-style-type: none">● 何のために● 誰から誰に● 何を● いつ● どのように	<ul style="list-style-type: none">● 事例調査● ボトルネックはどこか● 足りないものは何か	<ul style="list-style-type: none">● パターン構築● MET案作成● データジャーニー案作成● 効果の検証	<ul style="list-style-type: none">● 報告書● 属性項目の改訂案

※サンプルモデルを作成することはせず、部屋・空間においてターゲットを絞って検証を進める

Ⅱ. ユースケース検討 | 【拡張】 施工製作

乾式間仕切（PB/LGS）
属性情報連携

設計事務所、ゼネコン各社で同じ仕様であっても異なる壁符号、同じ符号であっても異なる仕様などがある。それらの情報を収集し、設計事務所からゼネコン、ゼネコンから専門工事会社に情報を受け渡した際に、同じ仕様として情報の受け渡しが可能かどうか現状を調査し、検証する。 次年度以降継続して同じ情報としての受け渡しができる方法を検討していく。



標準属性項目リスト更新
仮設工事

ゼネコンや仮設リース専門会社が各社で連携して行っている仮設物のBIMモデル化、そのモデルからの仮設材の数量積算、仮設材の発注に使用できる仮設工事（標準仕様書第2章）の標準属性項目を調査し、リストへの属性の追加、更新を行う。
（現状のものは、「外部足場」の属性に特化している）

ユースケース検証のとりまとめ

目的

ソフトウェア間・プレーヤー間でBIMに関するデータをやりとりする際に、ユースケースに即した要望と受け渡すアウトプットのマッチングを円滑にするために必要となる、決め事ややり方についての標準を示します。整理方針の具体化として、ユースケースの目的に基づいた、データの形や中身・流れを図式化（データジャーニー）する雛形を作成することで、いつ・誰が・どのような形でデータを要望するか、明瞭に記述でき、合意してやりとりできる環境を整備します。

標準属性項目リスト

フィルタセット	共通フィールド	個別フィールド

ユースケース検証

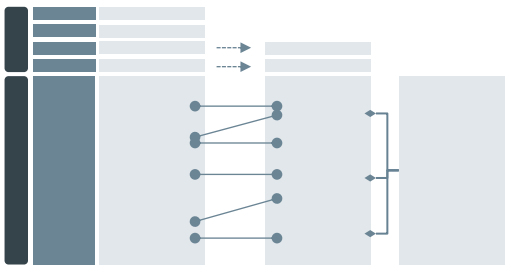


ユースケース

ユースケース	使用者	ステージ
整理		

ユースケースについては、昨年度集約したものより実現性と需要性から検討し選定（2024年度_標準化TF_活動報告書.pdf p31-33）

①データジャーニー



選定したユースケースに基づき、いつ・誰が・どのような情報を必要とするかを検証・整理します。その際に、「データジャーニー」の考え方を取り入れ、情報が誰によって作成され、どのように伝達され、どのように活用されるかを一連の流れとして明確化します。

※データジャーニーとは、データ活用の分野において「データと分析のプロセスガイド」や「データのライフサイクル（生成→収集→変換→分析→決定）の過程」を示す概念です。

②ユースケースModel Element Table (MET)

							S0	S1	S2
---	---	---	---	---	---	---	A	A	
								A	A
								A	
							A	A	
							A		A
							A		A
									A

日本では、現時点で国内に適用可能なMETが存在しておらず、また、今後は確認申請におけるデータ申請が本格的に開始さえる見込みであり、そこで標準化された属性項目リストを基盤として活用できることが期待されています。そのため、本ユースケース検証において、標準化TFで整理した標準属性項目リストを活用し、日本に適したMET（Model Element Table）の在り方を検討する必要があります。標準属性項目リストを縦軸、設計ステージS0～S7を横軸とした日本型METを検討し、MEA（Model Element Author）を明確化することで活用方法を整理します。

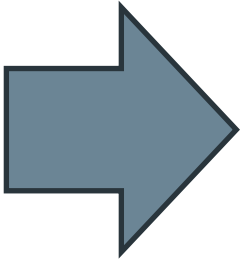
4 Ⅲ. 外部データとの連携 進捗報告

Ⅲ. 外部データとの連携 | 外部データ連携手法に関するとりまとめ（案）

外部データ連携手法
検討の方向性

昨年検討した38項目は既に公開されているデータベースを元に、外部データの連携について広く浅く分析を行った。今年度の外部データ連携手法検討では、BIMと連携することで建築情報（BIM）の価値を広げるような外部データを検証し、外部データ連携を実現する技術パターンの体系化を目指す。調査・検証において、技術的な課題のほか、標準化の課題や法規・権利的な課題も扱い、整理を行う。

外部データ 名称	分野	形式	構造化	恒常性	帰属	公開度	整備状況	活用フェーズ (S1～S7)								
								法令/国定/規格/公共/ 基準/運用・・・	種類・タイプ/版数	整備度合い/点数	更新頻度/周期性	官/学/民/メー カー・・・	公開/開示共有/非公開	動向・状況、ソース例	0	1
地図データ	公共/マップ類	GML・XML/地点	一律/大量・全数	随時/更新	官 / 民	公開	Ex) 基礎地図情報、住居表示 住所[国土交通省]	●	●	●	●	●	●	●	●	●
3D都市モデル	公共/マップ類	CityGML2.0/都市 GeoJSON等	一律/大量・部分	概ね1～5年/更新	官 / 民	公開/開示・共有	Ex) PLATEAU [国土交通省]	●	●	●	○	○	○	○	○	●
ハザードマップ	公共/マップ類	XML・CSV/自治体	一律/大量・全数	数年に1度/更新	官 [各自治体]	公開	Ex) ハザードマップポータル サイト[国土交通省・地産 産]	●	●	●	○	○	○	○	○	●
防災情報	公共/防災	画面表示/地点	一律/大量・全数	随時/更新・蓄積	官 [関係省庁]	公開	Ex) 防災情報連携センター [国土交通省]	●	●	●	○	○	○	○	○	●
都市計画情報	公共/都市	CityGML/自治体	一律/大量・部分	随時/更新	官 [各自治体]	公開	Ex) 都市計画基盤GISデータ [国土交通省]	●	●	●	●	○	○	○	○	●
不動産ID	公共/不動産	画面表示/不動産毎	一律/大量・部分	随時/不変・蓄積	官 [国土交通省]	開示・共有	Ex) 不動産ID官民連携協議 会 [国土交通省]	●	●	○	○	○	○	○	○	●
ボーリングデータ	公共/地盤	XML・画像/地点	一律/大量・部分	随時/更新・蓄積	官 [国土交通省]/民	公開/非公開	Ex) 国土地震情報検索サイト Kunitikan [国土交通省]	●	●	●	○	○	○	○	○	○
公共建築工事標準仕様書	公共/仕様書	PDF/工種別	複数形式含/分野別	3年に1回更新	官 [国土交通省]	公開	デジタル化について 随時開発	○	○	○	●	●	●	●	○	○
建築設計基準	公共/仕様書	PDF/分野別	基本文字列/分野別	3年に1回更新	官 [国土交通省]	公開	Ex) 官庁情報の技術基準 [国土交通省]	○	○	○	●	●	●	○	○	○
公共建築工事標準詳細図	公共/仕様書	PDF/分野別	図表含/分野別	3年に1回更新	官 [国土交通省]	公開	Ex) 官庁情報の技術基準 [国土交通省]	○	○	○	●	●	●	○	○	○
公共建築工事 標準単価積算基準	公共/コスト	PDF/分野別	複数形式含/分野別	不詳/更新	官 [国土交通省]	公開	Ex) 公共建築工事標準単価積 算基準 [国土交通省]	○	○	○	●	●	●	○	○	○
公共建築工事標準単価 システム	公共/コスト	Excel	構造化/標準書式	随時/更新	官/民	公開/開示・共有	Ex) 単価積算システムRIB C2 [国土交通省・建設シス テム研究所]	○	○	○	●	●	●	○	○	○
建設工事費デフレーター	公共/コスト	Excel/分野別	一律/工種別	年度/更新・蓄積	官 [国土交通省]	公開	Ex) 建設工事費デフレーター [国土交通省]	○	○	○	●	●	●	○	○	○
建設物価 建築費指数	公共/コスト	PDF・Excel/種類	一律/指数別	月毎/更新・蓄積	官/民	公開/開示・共有	Ex) 建設物価 建築費指数* [建設物価情報委員会]	○	○	○	●	●	●	○	○	○
建物価格統計情報	民間/コスト	PDF/用途・科目	構造化/標準書式	年毎/蓄積	官/民	公開/開示・共有	Ex) JBC [建設物価情報委員会]	○	○	○	●	●	●	○	○	○
構造歩掛	民間/コスト	複数形式含	複数形式含	随時/更新・蓄積	民	非公開	各社による	●	●	●	●	●	○	○	○	○
大臣認定情報	認定・評価/大臣	PDF/分野別	一律/分野別	随時/更新・蓄積	官/民	開示・共有	Ex) ICBA建築付加価値データ ベースシステム	○	○	○	○	●	●	●	○	○
EPD認証	認定・評価/認証	PDF/分野別	一律/分野別	随時/更新・蓄積	官/民	公開	Ex) SuMPO（サステナブル建 築推進機構）	○	○	○	○	●	●	●	○	○
環境ラベル	認定・評価/認証	PDF/種類別	一律/種類別	随時/更新・蓄積	官/民	公開	Ex) 環境ラベル等データベ ース 建築資材[環境省]	○	○	○	○	●	●	●	○	○
LCA原単位	認定・評価/原単位	Excel/資機材別	一律/種類別	不詳/更新・蓄積	官/学	開示・共有	Ex) 建設のLCA指針[環境省 会]	○	○	○	○	○	○	○	○	○



連携パターン1（フェーズ内）
（施工フェーズにおける）
作業中→共有→公開→アーカイブ

連携パターン2（フェーズ間）
設計→施工→運用

BIMとDBとの連携
リンク（常時／随時）／参照／注入

Ⅲ. 外部データとの連携 | 外部データのユースケースに関するとりまとめ（案）

外部データユースケース 検討の方向性

国交省の建築GX・DX推進事業に見られるように、建築物のライフサイクルカーボン算定評価とBIMの連携は急務である。昨年度の検証では、LCAが国内外で外部データ活用の整備が進み、積算との親和性も高いことが確認された。外部データ活用の社会的効果も大きいことから、LCAを主要ユースケースとして位置づけ、BIMを起点としたEPD連携の可能性を探る。

アウトプットの パターンおよび 今後の方向性	検証1	EPD連携の現状分析と可能性に関する検証 <div>現 状</div> BIM→数量リスト→ICT上のEPD情報との紐付け <div>将 来</div> BIM→数量リスト→外部データとしてのEPD紐付け	
	検証2	LCAとBIM連携の可能性に関する検証 <div>現 状</div> BIM→数量リスト <div>将 来</div> BIM→オブジェクト→オブジェクトベースのEPD	
成果物イメージ	20枚～40枚程のLCAとBIM連携に特化したレポート レポートではLCAとBIMの関係性を探ります。LCAの基本概念とGX側・LCA側の動向について解説します。次に、最新事例を紹介し、EPD（環境製品宣言）との連携の現状と将来の可能性を検証します。さらに、LCAとBIMの連携についても現状と将来の展望を考察し、BIM積算との類似性や属性項目リストとの関係性を明らかにします。最後に、EPDの海外動向や公開型外部データ化に向けた課題を整理します。		
先行事例 1	先行事例 2	業界分析 1 ／国内	業界分析 2 ／海外
Integrated Carbon Tool インテグレートド カーボン ツール （大和ハウス工業株式会社） BIM データをもとにしたCO ₂ 排出量算定ツールIntegrated Carbon Tool について大和ハウス工業様にご協力頂き、考え方や可能性を分析中。	One Click LCA （住友林業株式会社） フィンランドのOne Click LCA社の世界170国以上で導入されているホールライフカーボンの算定ソフトウェアOne Click LCAが外部データ としてのEPDをどのように扱うのか分析中。	LCA業界側で議論されている内容を分析し、BIM側で準備すべき内容を整理中。	buildingSMART International など、海外で議論されているLCA・EPDとBIMの連携事例を分析し、国内に応用できる内容を整理中。

5 今後の取り組み

最終成果物のイメージ

- I . 属性情報の標準化
- II . ソフト間での連携
- III . 外部データとの連携

概要書 Ver. 2.0	標準属性項目リスト Ver. 2.0	属性項目解説書 Ver. 2.0	用語集 Ver. 2.0
<div>標準属性項目リスト 概要書 (PPT)</div>	<div>標準属性項目リスト (pdf/Excel)</div>	<div>属性項目解説書 (Word)</div>	<div>用語集 (PPT)</div>
<div>• 概要書</div>	<div>• ロングリスト<ul style="list-style-type: none">統合版（意匠/構造/設備）施工・製作版• 付属<ul style="list-style-type: none">1. 簡易使い方解説2. 改訂説明・凡例</div>	<div>• 解説書<ul style="list-style-type: none">0. 共通1. 意匠2. 構造3. 設備4. 施工・製作</div>	<div>• 用語集</div> <div>※昨年度概要書に付録として提示していたものを別途発行する形式に変更予定</div>
活動報告書	成果報告書		
<div>2025年度 活動報告書 A4（タテ） (word)</div>	<div>2025年度成果報告書 I . 属性情報の標準化 (PPT)</div>	<div>成果報告書 II . ソフト間での連携 (PPT)</div>	<div>成果報告書 III . 外部データとの連携 (PPT)</div>
<div>• 標準化TFの目的</div> <div>• 運営報告</div> <div>• 成果物についての概要</div> <div>• 今後の検討事項と課題</div>	<div>• 標準属性項目リストの改訂</div> <div>• 属性項目データベース化要件案</div>	<div>• ユースケース検討書<ul style="list-style-type: none">ユースケース検討書_積算ユースケース（S4）（仮称）ユースケース検討書_部門間連携ユースケース（仮称）ユースケース検討書_施工ユースケース（仮称）ユースケースデータジャーニー雛形案</div>	<div>• データ連携検討報告書</div> <div>• 属性情報の検討報告書</div>

25年度マイルストーン | 今後の予定

2025年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	Q1			Q2			Q3			Q4		
	中間報告▼						最終報告▼					
I．属性情報の標準化												
①標準属性項目リストの改訂	改訂案の骨子作成					改訂案の内容精査				属性項目リストへ反映		報告書作成
	項目追加作業											
	改訂内容の検討									項目改訂作業		
②属性項目リストのDB化	属性項目DBの要件定義案の作成							要件の整理		報告書作成		
	属性項目DB要件定義							機能要件の整理				
II．ユースケースの検討												
①ユースケース検討書	ユースケース検証（深堀）									報告書作成		
	ユースケースの深堀											
	ユースケース選定			ユースケース検証（拡張）						報告書作成		
	ユースケース選定											
	ユースケース検討チーム編成											
ユースケース検討												
III．外部データとの連携												
①ユースケース検討書	検討対象/手法の選定			手法と要件整理			連携手法の検証			報告書作成		
	ユースケースの深堀											
	外部DB連携手法の検討											
	外部DB要件整理											
								外部DB連携手法の検証				

以 上

標準化タスクフォース